

令和6年8月29日

まちづくり委員会資料

(仮称) 生田緑地ビジョンアクションプラン
策定に向けた検討状況について

建設緑政局

(仮称) 生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況について

1 (仮称) 生田緑地ビジョンアクションプランの概要

(仮称) 生田緑地ビジョンアクションプラン（以下「アクションプラン」）は、令和6年5月に改定した生田緑地ビジョンに示した施策の基本方向に基づく短・中長期の具体的な取り組みを記載し、着実に実施していくための行動計画を示すものです。

2 生田緑地ビジョンの概要について

(1) 概要

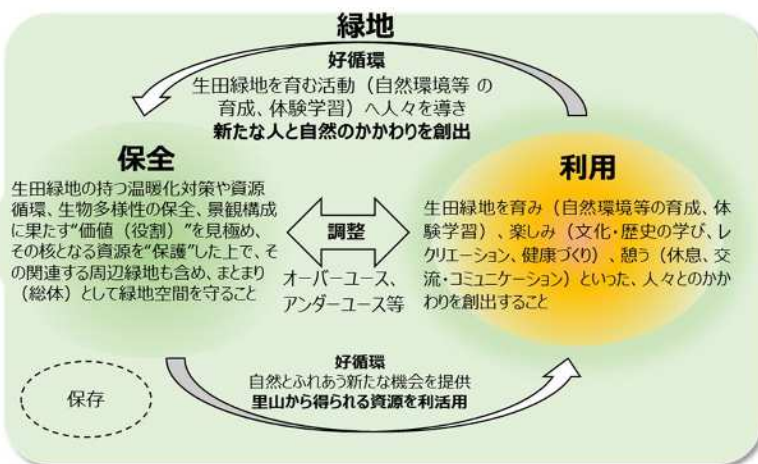
生田緑地ビジョンは、生田緑地にかかわる多様な主体が共通の想いを持って活動や取組を進めることができるよう、誰もが共有できる生田緑地のめざすべき将来像を示すものです。

(2) 基本テーマ

「支えあう、自然と人々の営み」

(3) 基本的考え方

「緑地の存在効用（保全）と利用効用（利用）の調整により、両者が好循環するしくみ」



(4) 基本理念

『豊かな自然・文化・人・まちが共に息づき
みどりがつなげる持続可能な生田緑地の実現』

(5) 計画期間 概ね10年

(6) 資源ごとの将来像

基本理念の実現に向けた、資源ごとの将来像を次のとおり示します。



(7) 施策の基本方向の策定に向けた視点

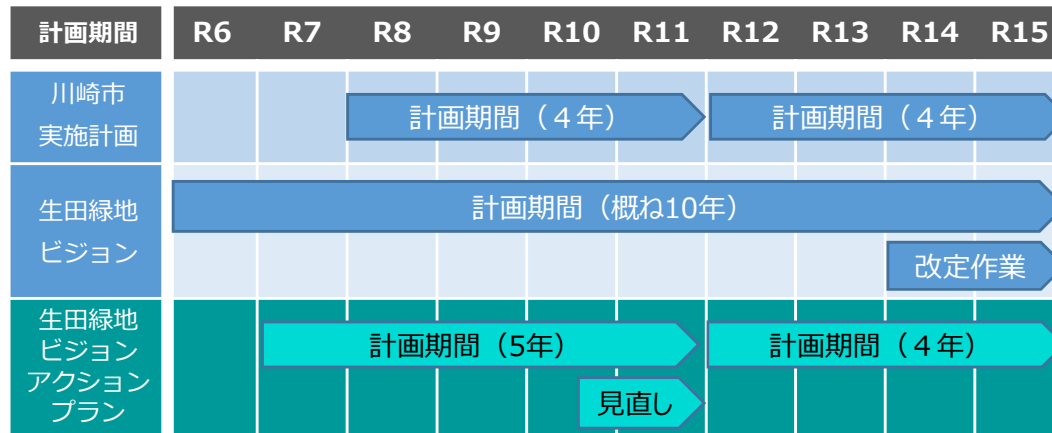
- ①生物多様性を未来に引き継ぐ
- ②新たな価値創出や社会課題解決のための場となる
- ③しなやかに使いこなす
- ④多様な主体との連携・協働・共創
- ⑤公園DXの推進
- ⑥安全・安心の実現
- ⑦ダイバーシティ&インクルージョン
- ⑧防災機能の向上

(仮称) 生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況について

3 (仮称) 生田緑地ビジョンアクションプラン (案) について

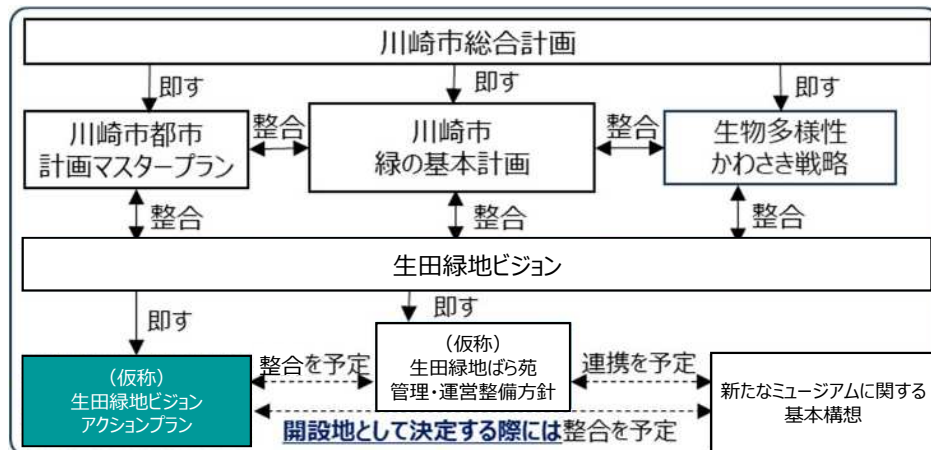
(1) 計画期間

アクションプランは、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5か年の計画です。



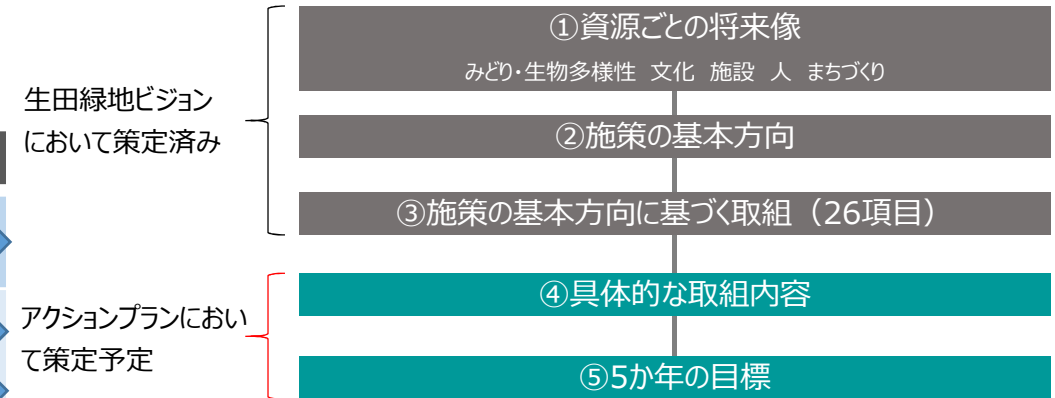
(2) 上位・関連計画における位置付け

アクションプランと行政計画との関係性を次のとおり示します。



(3) 策定範囲

アクションプランの策定範囲を次のとおり示します。



(4) 構成（目次イメージ）

アクションプランの構成を次のとおり示します。

第1章 生田緑地ビジョンの概要

第2章 生田緑地ビジョンアクションプラン

- 1 概要
- 2 計画期間
- 3 上位・関連計画における位置付け
- 4 生田緑地ビジョンアクションプランの取組イメージ
- 5 施策の基本方向に基づく取組
 - (1) みどり・生物多様性
 - (2) 文化
 - (3) 施設
 - (4) 人
 - (5) まちづくり

記載項目

- ・具体的な取組内容
- ・5か年の目標
- ・イメージイラスト・写真等の活用

(仮称) 生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況について

(5) 具体的な取組内容の検討キーワード

ア みどり・生物多様性

■ 概要 生田緑地の自然資源は、地域の人々の生活と様々なつながりを持つことで、親しまれ、愛され、守られてきました。この人とのつながりで引き継がれてきた自然資源の価値を改めて市民と共有し、未来に引き継ぐため、公園DXを最大限活用するとともに、多様な主体との取組を推進し、安全・安心で、生物多様性に配慮したみどりを育てていきます。

	施策の基本方向に基づく取組	検討キーワード
 「生田緑地の自然が守られ、育まれている」	(1) ナラ枯れ被害に対応した緊急対応と植生管理計画の見直しなど中長期的な取組の推進	ナラ枯れした樹木の伐採計画。ボランティア団体が有する維持管理のノウハウの共有。里山を未来に引き継ぐ植生管理計画の見直し。
	(2) 植生管理計画の順応的管理の実践	順応的管理に必要な知識や技術を学ぶ。大学や企業等との連携した取組や人材確保。
	(3) みどりを支える新たな担い手づくりと支援する仕組みづくり	「誰でも参加しやすいプログラム」、「フレキシブルなボランティア制度」などの仕組みづくり。生田緑地内外のボランティア同士の知識や技術の情報交換。
	(4) 多様な主体との連携・協働・共創による取組	企業の社会貢献事業との連携。助成制度の活用。
	(5) 伐採木の資源化・工芸品化等の有効活用	里山資源の活用試行（ホダ木によるキノコ栽培、和紙、染織や道具・遊具づくり、炭での暖房、水質浄化など）。生田緑地の自然素材で作ったモノを使ったイベントや販売会等の実施。
	(6) 生物多様性の保全をテーマにした多様な取組(ICT技術を活用した情報収集や発信・市民の知的好奇心を活用した科学的活動)の推進	大学等と連携したSNS等による情報発信。ICタグの活用によるビッグデータの整備など。

イ 文化

■ 概要 文化財の保存・活用に加え、新たなミュージアム構想を含めた緑地内の多様な文化施設と緑地との融合、アートや文化を活かした緑地内、周辺まちづくりとの一体的な取組等により、緑地内外の一体的な魅力向上を進め、生田緑地の歴史・文化の融合を進め、未来へつなぎます。

	施策の基本方向に基づく取組	検討キーワード
 「生田緑地内の多様な文化施設と緑地との融合やアート・文化を活かした緑地内外の一体的な魅力向上が図られている」	(1) 新たなミュージアム構想も含め、緑地内の文化施設と緑地との融合	文化施設とみどりの相互活用した取組。子どもが成長していく過程で「文化にふれあう機会」と「自然とのふれあい教育の場」の提供。
	(2) 東地区も含めたアートや文化を活かした緑地内の一体的な取組実施	多様な文化施設の魅力を施設内だけでなく、生田緑地内に広げ、みんなが文化に触れ合う機会を増やす。既存のイベント・プログラムなどの検証。効果的な文化体験や情報の提供。
	(3) 駅前周辺まちづくりと連携した文化活動の実施	生田緑地と地域の歴史・文化のつながりを学ぶ機会の創出。
	(4) 歴史・文化への多様なアクセシビリティの向上	歴史・文化に触れることができるような案内看板等の整備。地域との連携や地域資源(重層的な歴史的資源)を活かし、楽しめるしかけづくり。

(仮称) 生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況について

ウ 施設

■ 概要 緑地内の多様な施設については、その機能を最大限発揮するため、公園DX等を活用した戦略的な維持管理を行うとともに、多様な主体との連携・協働・共創により魅力を最大化します。また、各施設の回遊性向上に向けた取組や特に東地区の供用の拡大に向けて、ばら苑の再整備など関連計画を含めて連携して取り組むことで、多様な魅力が自然の輪の中で融合し、緑地の価値・魅力の向上を目指します。なお、資産マネジメントの観点から、既存施設の改修等にあたっては、資産保有の最適化に向けた取組を進めるものとし、みんなが使いやすく安全・安心な公園を実現します。

	施策の基本方向に基づく取組	検討キーワード
 「生田緑地における施設として価値が最大化されている」	(1) 施設の資産マネジメントを踏まえた事業の推進	施設の更新にあたり、長寿命化の観点から使用材料の選定、標準化。利用状況を踏まえた施設規模の見直し。
	(2) 効果的・効率的な施設の維持管理運営の推進	利用の変化やニーズの変化を踏まえた柔軟な施設運営。
	(3) 回遊性の向上（移手段・園内ルート・情報）など緑地全体の魅力向上に向けた計画的な事業の推進	周遊散策路の整備による緑地内の回遊性向上。案内板の整備、駐車場の利用案内の改善。
	(4) ばら苑のあり方を検討するとともに、向ヶ丘遊園跡地利用計画、新たなミュージアム構想と連携・融合を目指した調整を進め、東地区の魅力の最大化に向けた取組	東地区の魅力の最大化に向けた、向ヶ丘遊園跡地利用計画や新たなミュージアム構想とも連携、生田緑地ばら苑の再整備の推進。
	(5) 安全・安心な公園に向けた事業の推進	災害時に避難できるオープンスペースや動線を確保。発災時のオープンスペース等の使われ方の想定と訓練の実施。斜面地等を対象にした専門家による調査。グリーンインフラ機能の維持。

エ 人（担い手・来園者）

■ 概要 子どもから高齢者まで誰もが、協働のプラットフォームを通して、自然と人々との営みの関係性を理解しながら緑地に関わることで、豊かな自然・文化・人・まちが共に息づきみどりがつけ、持続可能な生田緑地の実現に向けて、みどりに親しみをもち、ファンになることを目指します。協働のプラットフォームについては、新たな価値創出や社会課題解決の場となるよう、誰もが参加しやすい活動プログラム創出の場とするともに、市民が生き物等の調査やその手法の検討を学識経験者と協働で行うなど科学的な取組を担えるよう取組を進めます。

	施策の基本方向に基づく取組	検討キーワード
 「誰もが生田緑地を楽しむとともに、親しみをもち、ファンになっている」	(1) 協働のプラットフォーム「生田緑地マネジメント会議」「生田緑地自然環境保全管理会議」の取組を強化	誰もが生田緑地に関わりやすい仕組みづくり。協働のプラットフォームの運営体制の強化。
	(2) 担い手を支える仕組みづくり（中間支援組織の拡充）	既存団体の活動や、新たな団体の立ち上げなどを支援。
	(3) 自然環境の保全など課題解決の場となる取組みの試行実施	緑地を活用した社会実験を実施。
	(4) 誰もが緑地の活動に参加しやすいプログラムの提供	各団体の活動への参加のきっかけづくりとなる「誰でも参加しやすいプログラム」や「フレキシブルなボランティア参加」を企画。親子連れや初心者、障がいをもつ人でも参加できるプログラムの提案。
	(5) リスクマネジメントの実施（緑のキャリングキャパシティの検討等）	生田緑地の活動におけるヒヤリハットなど安全衛生に関する情報を共有できる仕組みづくり。イベント等の実施にあたって、緑地のキャリングキャパシティを踏まえた管理運営。

(仮称) 生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況について

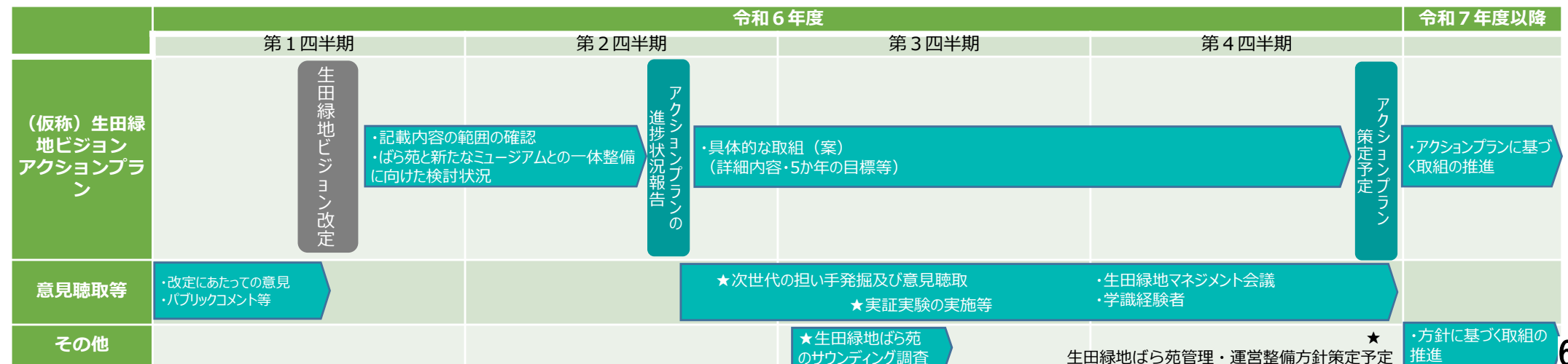
オ まちづくり

■概要 生田緑地が市域最大の緑地としての役割を果たすとともに、地域の財産として子育て世代等の新たなニーズにも応え、地域の賑わいや経済の活性化の場として活用され、みどりのまちづくりの核としての役割を果たします。また、自然災害への備えとして、生田緑地に関わる人が、様々なハザードマップや災害の歴史等への理解を深め、関わることにより、発災時の有効な緑地利用につなぎ、安全・安心なまちづくりを進めます。

	施策の基本方向に基づく取組	検討キーワード
 「生田緑地が地域の財産として活用され、地域のにぎわいや経済の活性化につながっている」	(1) 地域の公園としての役割を果たす	「子育てを楽しめるまちづくり」に対応した取組の検討。世代、季節、時間帯などでの公園の使われ方を踏まえた維持管理。
	(2) ICT技術等を活用した情報発信	生田緑地の自然を知り、体験できる情報発信を検討。リモートワークの増加を踏まえ、緑地のオープンスペースを活かした場の提供（wifi環境の整備等）。
	(3) 市域における観光拠点としての役割を果たす	生田緑地東口ビジターセンターの活用や駅周辺施設の活用を検討。自然環境や緑地の魅力を周辺のまちに情報発信し、ふれあう機会を創出。
	(4) 生田緑地マネジメント会議等を活用した商店街や町内会等の連携による魅力向上	既存のプラットフォームに加えた取組やSDC等との連携。
	(5) 駅周辺からのアクセス性の向上とアクセス路の魅力向上	最寄り駅から生田緑地までのアクセス性向上について検討。最寄り駅から生田緑地までの移動時間を楽しめる仕掛けづくり。地域の多様な資源との連携。
	(6) 自然災害時等に緑地が果たすべき役割の拡充	災害時に避難できるオープンスペースや動線を確保。発災時の公園施設、オープンスペースの使われ方を想定し、訓練等を実施。

4 策定に向けたスケジュール

アクションプランの具体的な取組は、これまでの生田緑地ビジョン改定にあたっていただいた御意見を踏まえるとともに、生田緑地マネジメント会議や学識経験者へのヒアリングのほか、次世代の担い手への意見聴取や生田緑地ばら苑のサウンディング調査を実施するなど、幅広く御意見を伺い、取組内容の深度化を図ってまいります。



(仮称) 生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況について

5 東地区における検討状況について

新たなミュージアム開設候補地の状況を踏まえ、次のとおり検討を進めています。

(1) 東地区の整備の考え方(生田緑地ビジョン)



(2) 各拠点の検討状況

ア 花と緑の拠点(ばら苑の再整備に向けた検討)

(ア) 今後の「ばら苑」が目指すべき方向性(生田緑地ビジョン)

今後の「ばら苑」が目指すべき3つの方向性

継承すべき・したい資源

・貴重なばらのコレクション

・歴史ある庭園や施設

・市民協働でばらを育てる文化

「サステナブル」なばら苑

持続的な管理運営、種の保存、自然循環に取り組む

「歴史・文化」拠点となるばら苑

これまでの歴史を継承するとともに、庭園文化の拠点として整備

「魅力ある」ばら苑

誰もが親しみ、関わりたくなるような庭園を整備

直面する課題

・ばらの感染症や環境の変化への対応

・ばら苑の老朽化、庭園としての魅力向上

・バリアフリーやアクセス性の改善などへの対応

「魅力が溢れ、誰もが好きになる」ばら苑の実現

(イ) 適切な事業手法の検討

ばら苑の再整備に向けたPPPプラットフォーム意見交換会において、民間事業者へのヒアリングを実施。今後につきましては、新たなミュージアム構想との連携も視野に入れて、民間活用の導入可能性の検討を進めてまいります。

2023年度 第5回川崎市PPPプラットフォーム意見交換会 実施結果概要

(実施日：令和6年3月11日、12日、参加事業者：全4者、対話方式：個別対話)

項目	意見
事業手法	・指定管理者制度が望ましい。 ・独立採算制を目指すような事業手法や利用料金設定が望ましい。
参入時期	・設計から関わられたほうが、コンセプトが考えられ、柔軟性が上がり魅力を高めることにつながる。 ・設計と運営が一体的にできることが望ましい。
料金体系	・現在の水準を1段階上げるためには、利用料金制の導入は必要。 ・価値の向上に合わせた利用料金の設定ができると良い。
開苑期間	・利用できる時間を長くしたほうがいい。もったいない。 ・周辺に楽しめる施設があるので、連携したイベントをばら苑で実施し、日常的にばら苑を利用できる状態が望ましい。
コンテンツ	・管理に関わる作業をコンテンツにしたプログラムを提供することも可能
アクセス	・公共交通機関で来苑できると良い。
バラ・混植等	・バラだけではなく、他の植物も一緒に植えることで、年間を通して楽しめる。 ・最近はナチュラルガーデンが増えてきているが、バラを主にしたほうが良い。
ボランティア	・ボランティア活動は、役割を決めたうえで、行ったほうが良い。 ・専門家が管理するエリアとボランティアが活動エリアを分けることも必要。
連携	・新たなミュージアムと一体で考えることで、シームレスな場となり、見栄えが良く活用のしがいがある。

(ウ) 課題解決に向けた今後の検討事項

今後の「ばら苑」が目指すべき方向性に基づく取組等について、ボランティアや緑地内の活動団体等の意見等を踏まえ検討を進め、整備に向けた与条件の整理を行ってまいります。

【方向性に基づく検討項目(案)】

a「サステナブル」なばら苑

・バラの継承・品種の見直し、自然環境への配慮事項、持続的なサービスの提供

b「歴史・文化」拠点となるばら苑

・感動の提供、誰もが楽しめる、多様な庭園空間

c「魅力ある」ばら苑

・施設の更新・充実、魅力あるコンテンツの充実、協働の取組の強化・拡充

(仮称) 生田緑地ビジョンアクションプラン策定に向けた検討状況について

イ 様々な交流の場（新たなミュージアム開設候補地）

市民文化局による新たなミュージアムについての検討状況は以下のとおりです。

※詳細は、「参考資料」参照

(ア) 施設規模の検討状況

■ **想定する床面積 9,500㎡～11,500㎡**（令和6年2月文教委員会報告）

※これまでの検討に基づく事業内容案を踏まえて必要と想定される面積であるため、今後の検討や社会状況の変化等により、変動する可能性がある。

(イ) 開設候補地への通行ルート等の調査・検討の状況

- 基礎調査・検討の結果、向ヶ丘遊園跡地利用計画の区域内での**通行ルート等の整備が技術的に可能**であることが概ね明らかとなった。

<通行ルートの特徴>

- 現道をベースに山側へ拡幅（現道幅員約5m→計画幅員9.5m、主に切土）

(ウ) 交通アクセスに関する検討状況

<交通アクセス手段の導入に向けた進め方>

- 開設を見据えた**段階的な検討**を実施する
- 実現可能性が高い手段を中心に**関連事業等との連携も含め検討・調整**を進める
- 交通インフラ情勢等の動向に注視し、**最適な手段導入の検討**を進める

ウ オープンスペース（憩い・賑わい・防災機能）

市民とともに検討した生田緑地整備基本構想等において、ばら苑に隣接した区域については、オープンスペースを整備することが位置付けられており、憩い・賑わい・防災機能など多様な利活用が可能な空間として近年その価値が見直されています。誰もが使いやすいオープンスペースの創出が、東地区の新たな魅力向上に必要不可欠となっています。

(3) 最適な配置に向けた検討事項 ※市民文化局と連携して検討

ア 与条件の優先度を考慮した検討

- 最適な施設配置や管理運営方法の検討に向け、各施設の整備に関する与条件を具体化するとともに優先度を整理

イ 地区全体の魅力の最大化に向けた検討

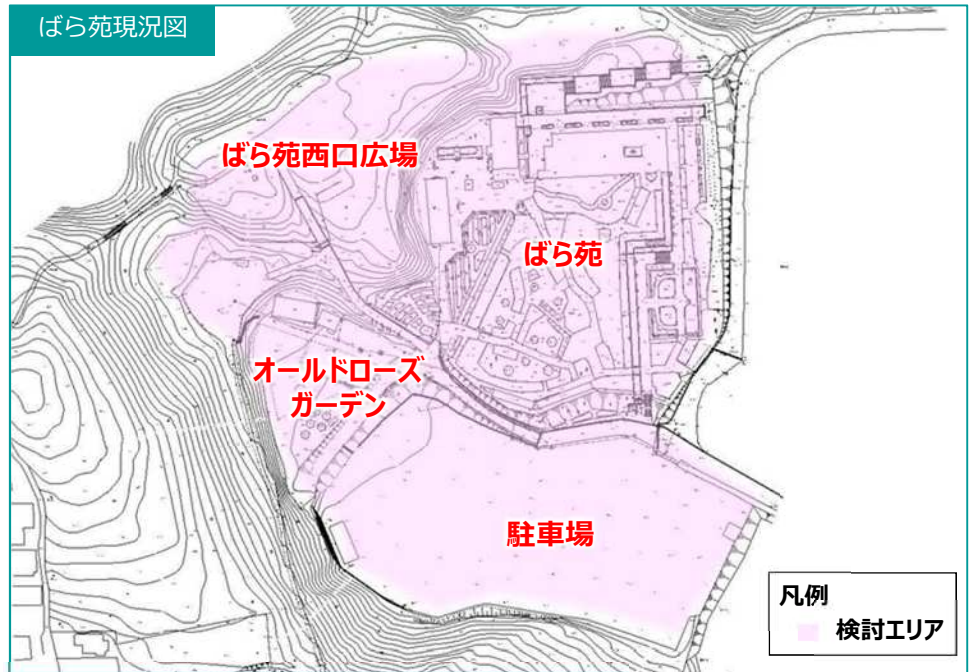
- 新たなミュージアムの想定面積・建物高さ、既存のばら苑の造形のコンセプト（沈床花壇、緑を背景とした等）も踏まえ、既存の樹林地等の自然環境の保全や景観へ配慮したうえで、最適な施設配置の視点を整理

ウ 適切な事業手法の検討

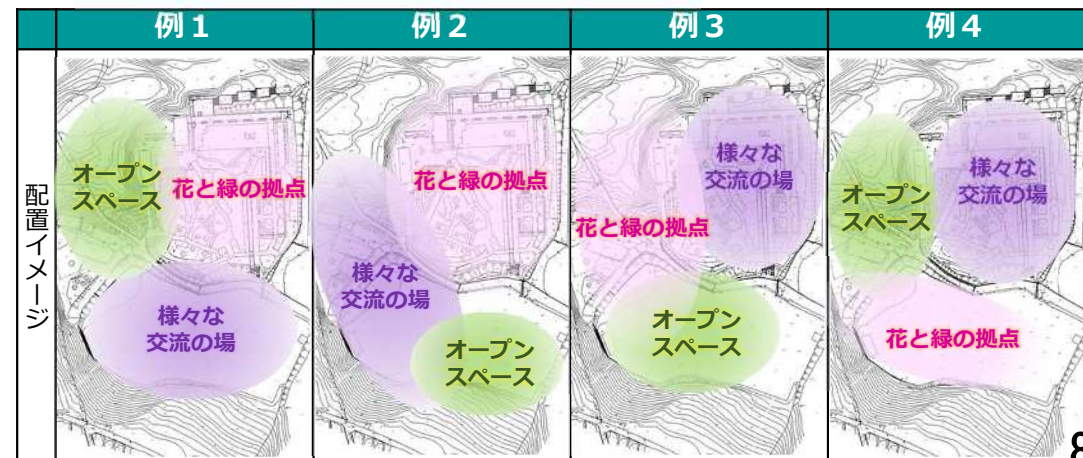
- 民間事業者のノウハウやアイデアを活用するため、サウンディング調査を活用し、民間事業者の意見・提案、事業上の課題などを把握
- 民間事業者の意見等も踏まえ、事業の期間、特性等の方向性を検討し、整備手法（PFI事業等）や維持管理運営手法（指定管理者制度等）といった様々な民間活用の中で、適切な事業手法を選択

(4) 施設配置に関する検討例

生田緑地ばら苑の課題解決に向けた検討や、民間事業者からの意見等を踏まえ、魅力の最大化の可能性を狭めることが無いよう、施設配置について「ばら苑」「駐車場」「オールドローズガーデン」などのエリアを一体的に検討してまいります。なお、最適な施設配置については、生田緑地に関わるボランティアの意見やサウンディング調査による事業者の意見等を踏まえ、メリット・デメリットを整理してまいります。



※検討エリアは未定のため、おおよその範囲を示しております



＜新たなミュージアムの基本計画に関する検討状況について＞

- ・ 「「（仮称）新たなミュージアムに関する基本計画」策定に向けた検討状況について（中間報告）」（令和6年2月公表）では、懇談会での議論や市民協働の取組等を踏まえて整理した「機能」など、事業活動に係る検討状況を中心に取りまとめたところだが、併せて**想定施設規模（想定床面積）等についても整理が進んだこと**を踏まえ、現在は、基本計画策定に向けて、**開設候補地への通行ルート等の調査・検討など施設整備に係る取組についても検討を深度化している状況**である。
- ・ 本件は、**通行ルート等の調査・検討や、施設の配置等に関する課題と対応に係る検討が一定進んできたことから、その状況について報告するものである。**

1. 開設候補地への通行ルート等の調査・検討の状況について

（1）これまでの経過

- ・ 開設候補地には接道が必要で、向ヶ丘遊園跡地利用計画を進める小田急電鉄株式会社（以下「小田急電鉄」という。）と協議を進めている。

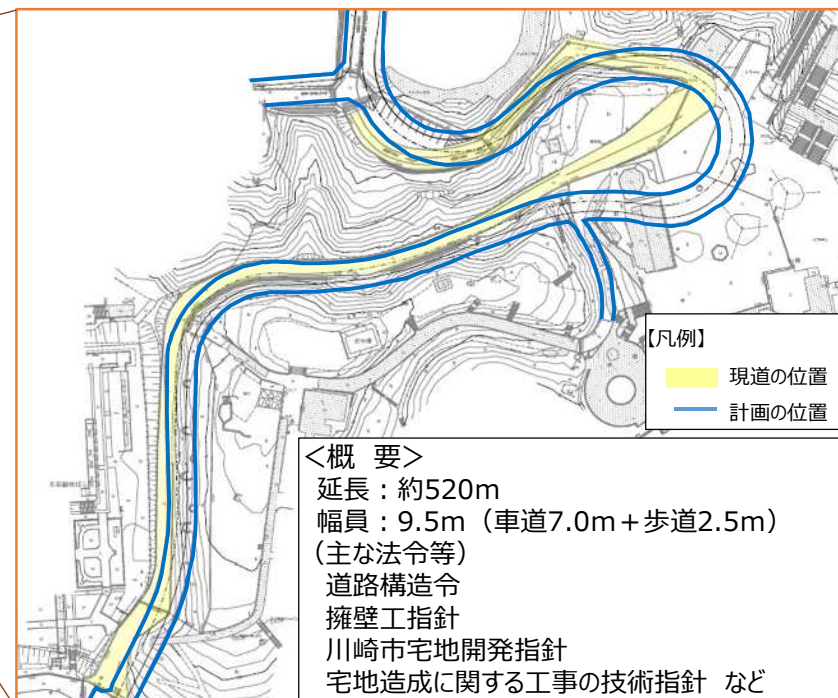
時期	内容
R5. 5	「新たなミュージアムに関する基本構想」策定（開設候補地の決定）
R5.8	小田急電鉄と「新たなミュージアムの開設候補地に係る協議に関する覚書」を締結
R5.11	小田急電鉄と「新たなミュージアムの開設候補地に係る基礎調査・検討に関する協定書」を締結
R6. 2	「（仮称）新たなミュージアムに関する基本計画」策定に向けた検討状況について（中間報告）を公表
R6. 5	基礎調査・検討の完了

（2）開設候補地への通行ルート等の調査・検討の状況

- ・ 基礎調査・検討の結果、向ヶ丘遊園跡地利用計画の区域内での**通行ルート等の整備が技術的に可能**であることが概ね明らかとなった。
- ・ 7月23日に「新たなミュージアムの開設候補地に係る詳細調査・検討に関する協定書」を締結し、**詳細な調査・検討等に着手した。**（令和7年5月工期）
- ・ 詳細な調査の実施と併せ整備に関わる事業費や用地取得に伴う費用等について小田急電鉄との役割分担に関する協議・検討を実施予定。

＜通行ルートの特徴＞

- ・ 現道をベースに山側へ拡幅（現道幅員約5m→計画幅員9.5m、主に切土）
- ・ 延長：約520m、最急縦断勾配：9%
- ・ 高低差処理は、概ねブロック積擁壁を予定



「（仮称）新たなミュージアムに関する基本計画」策定に向けた検討状況について

2. 隣接するばら苑再整備と連携した取組の状況について

（1）取組の背景について

- 生田緑地ビジョン(R6.5改定)において**生田緑地東地区の整備の考え方**として「憩いや賑わいの創出や様々な交流、周辺地域の活性化を促進する」など位置づけている。

＜ばら苑の課題＞

課題：開苑後60年以上が経過（昭和33年開苑）し、ばらの感染症、ばら苑の老朽化など

提言：令和3年生田緑地マネジメント会議より、「生田緑地（ばら苑）再生に関する提言書」



根頭癌腫(こんとうがんしゅ)病

- 「魅力が溢れ、誰もが好きになる」ばら苑として再生が必要であることや、文化芸術を介し、緑地とまちをつなぐ、様々な交流の場としての新たなミュージアムの役割が期待されているなど**東地区全体の魅力の最大化に向け、連携した取組が必要**となっている。



施設の老朽化

（2）取組の方向性について

- 市民アンケートや事業者ヒアリングにおいて、**一体整備への期待や民間活力導入の可能性について多くの意見を**いただいている。

①「一体整備への期待」について

- オープンハウス型説明会での『「生田緑地ばら苑隣接区域」を開設候補地とする新たなミュージアムに期待することは？』に関するアンケート（シール投票）調査では、「ばら苑含め敷地全体を有効活用した一体的な整備」が第4位となっている。

＜アンケート（シール投票）調査状況（5～7月）＞

■ 調査概要

- 昨年度から引き続きオープンハウス型説明会を市内で開催し、併せてアンケート（シール投票）調査を実施している。

開催：計10回

総票数：3,042

選択肢：12問（1人最大3票投票）



説明の様子

■ アンケート結果

順位	アンケート内容	票数
1位	観だけでなく、体験・体感できるプログラム	472票（16%）
2位	家族（子どもからお年寄りまで）過ごせる施設	442票（15%）
3位	駅からの交通アクセスの向上	426票（14%）
4位	ばら苑含め敷地全体を有効活用した一体的な整備（ばら苑で体験・販売活動ができる場、ばら苑カフェなど）	307票（10%）

②適切な事業手法の検討について

- 事業の期間、特性、規模等の要件を検討し、整備手法（PFI方式等）や維持管理運営手法（指定管理者制度）など、適切な事業手法を選択するため、民間事業者との対話で得られた意見などをもとに、**効果や課題について整理**を行っている。

■ ばら苑（2023年度第5回川崎市 PPP プラットフォーム意見交換会）

日程：3月11日、12日

対話：4社（個別対話）

意見：独立採算制を目指す仕組みが良い、指定管理者制度が望ましい
他の植物も植えるなど通年開放が望ましい
新たなミュージアムとの一体的な整備は魅力創出につながる

■ 新たなミュージアム（サウンディング型市場調査）

日程：7月22日～26日

対話：19社（個別対話）

意見：PFI(BTO)、DBOなど民間活用手法は可能
ばら苑との一体整備は魅力創出につながる
物価高騰は事業への影響度合いが大きい



事業者説明会の様子

③取組状況と今後の進め方について

- 新たなミュージアムの開設の機会を捉え、効率的・効果的な、「ばら苑」の課題整理及び**東地区全体の魅力向上に向け、両敷地を含めた一体的整備の有効性、配置の考え方、事業手法の検討**などを進めている。
- 年内を目途に従来型手法と民間活用手法の比較・検討（「簡易な検討」）を行い、その結果、民間活用導入を目指して「詳細な検討」を実施することとなった場合は、具体的な事業手法の選定など導入可能性調査を進めていく。

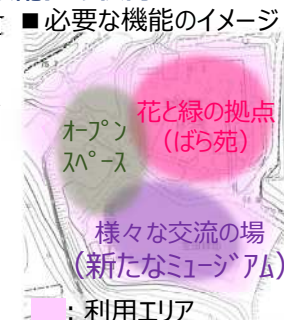
＜検討のイメージ＞

与条件の優先度を考慮した検討

- 最適な施設配置や管理運営方法の検討に向け、各施設の整備に関する与条件の具体化、優先度の整理（**新たなミュージアム**：想定面積、建物高さ、大型車両の寄り付きスペースなど、**ばら苑**：造形コンセプト、必要機能、規模、魅力向上施設など）

一体整備と最適な施設配置の検討

- 東地区の利用エリアにおいて、ばら苑、新たなミュージアム、オープンスペースの配置を検討し、メリット・デメリットの整理
- 上記や機能性、親和性、交流、景観の評価の視点を整理するなど最適な配置に向けた要件の整理



適切な事業手法の検討

- 民間事業者のノウハウやアイデアを活用するため、必要な場面でのサウンディング調査の実施
- 民間事業者の意見・提案、事業上の課題などの把握
- 事業の期間、管理・運営、規模等を検討し、適切な事業手法の選択

「（仮称）新たなミュージアムに関する基本計画」策定に向けた検討状況について

3. 交通アクセスに関する検討について

（1）検討の背景について

- ・鉄道最寄り駅（小田急線「向ヶ丘遊園駅」、JR南武線「宿河原駅」）から開設候補地まで約2 km、徒歩25分程度であり、また府中街道から候補地まで勾配の大きな坂道があり、**アクセス性の課題対応が必要**となっている。
- ・一方で新たなミュージアムの開設時期は、最短でも令和13年度頃となる見込みであることから、開設時において効果のある手段であることが必要となっている。
- ・生田緑地内における回遊性向上の課題もあり、関連施設と連携した取組が必要となっている。

（2）交通アクセス手段の基本的な考え方等について

- ・現状・課題を踏まえた効果的な手段の導入、実効性を念頭に置いた進め方が必要であり、「アクセス手段の基本的な考え方」や「進め方」などをもとに、**基本計画への「可能性の高い交通手段の選定」に向け検討を進めている。**

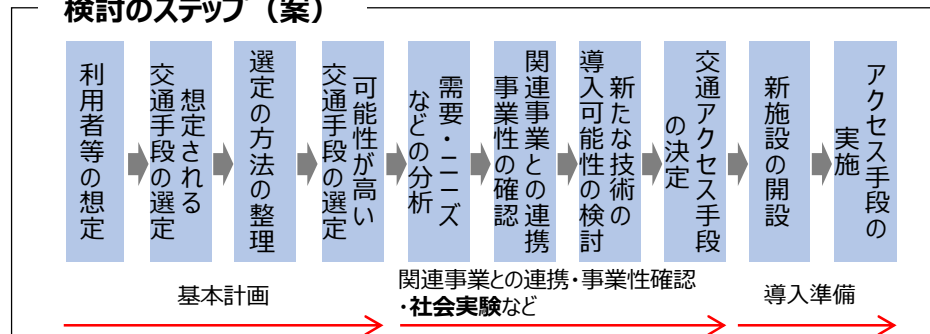
<交通アクセス手段の基本的な考え方>

- 来館者が快適に利用でき、**アクセス利便性が向上することで、新たなミュージアムの魅力向上に資する**ものであり、生田緑地全体の魅力向上に寄与するもの
- 新たなミュージアムへのアクセス性向上に資する手段とし、**実現性が高く、効率的・効果的な手段**であること
- 開設時期が最短でも令和13年度頃となる見込みであることから、**利用者ニーズや事業性（運営主体・採算性など）に適した最適な手段**であること

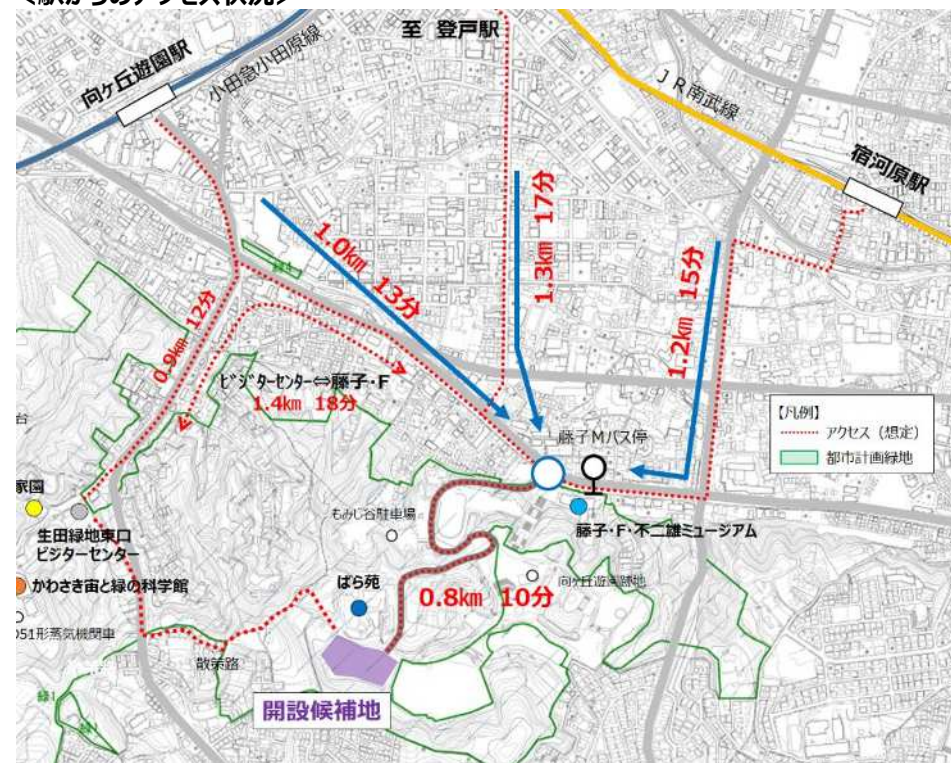
<交通アクセス手段の導入に向けた進め方>

- 開設を見据えた**段階的な検討**を実施する
- 実現可能性が高い手段を中心に**関連事業等との連携も含め検討・調整**を進める
- 交通インフラ情勢等の動向に注視し、**最適な手段導入の検討**を進める

検討のステップ（案）



<駅からのアクセス状況>



4. 事業の今後の予定について

時期	内容
令和6年11月	基本計画（案）の公表
令和7年3月	基本計画の策定
令和8年3月	管理運営計画の策定
令和8年度以降	事業者公募の実施